砂川市立
小中学校
統合準備だより
事務局　砂川市教育委員会学校再編課
第２８号
令和７年６月
発行

砂川学園の校歌が完成しました

砂川学園 校歌

作詞・作曲　金田　智美（Tomomi）

一．ふるさとの絵は　雪帽子のピンネシリ
明るい窓に　陽はさし　青く晴れ渡る空
共に紡いだ言葉　高く高く響いて行け
いつまでも繋いでいく
遠い日も　この瞬間も
時の刻みは希望の音　新しい未来へ

二．耳をすませば　緑揺らす風のうた
二つの川が　重なる場所　花咲く大地
共に歩き始めた　強く強く進んで行け
どこまでも続いていく
長い道　何が待ってる
時の歩みは夢の数　星影に照らされ
笑顔でよびかける　友の声
砂川で学び　芽吹く日々
さぁ明日も　手を取って　新しい未来へ

砂川市立小中学校統合準備委員会では、校歌制作にあたり、児童生徒と市民が校歌制作にかかわることができること、砂川市にゆかりのある専門家に制作を依頼することなどを方針として示し、令和６年７月に砂川市出身の金田智美（Tomomi）さんに委託して、校歌制作がスタートしました。

令和６年８～９月には児童生徒や保護者、地域の皆様の想いを作詞の参考とするため、校歌の歌詞にしたい言葉やフレーズを募集し、のべ 127 人から 322 件の応募がありました。完成した校歌には応募いただいたフレーズがちりばめられ、統合前の全ての小中学校の校歌の歌詞が引用されています。

統合準備委員会や小中学校の音楽教諭と意見交換を行いながらブラッシュアップされた校歌は、令和７年３月にレコーディングが行われ、３月 31 日に完成版が納品されました。校歌については、砂川市ホームページで公開しています。右記の QR からアクセスできます。

［砂川学園校歌］

▲レコーディングの様子

▼完成挨拶の様子

砂川市小中一貫教育推進委員会　令和７年度の新体制でスタート

○第１回推進委員会　開催

４月 30 日（水）、第１回砂川市小中一貫教育推進委員会（以下「推進委員会」）が開催され、小中一貫教育の推進に向けた令和７年度の取組がスタートしました。推進委員会は学校関係者で構成され、小中一貫教育に関する調査・協議を行うことを目的として、令和３年度から設置されている機関で、この度、教職員の異動などに伴い新体制となりました。

○会議の概要

会議では令和６年度の小中一貫教育推進委員会の各ワーキンググループの活動や成果についての報告と、それを受けた令和７年度の業務内容等に関する協議が行われました。各ワーキンググループは令和７年度に行われる会議を通して、砂川学園の開校に向け、様々な課題について協議・決定するとともに、学校間の交流行事を企画・実施していきます。

○令和７年度から始めた取組

砂川市では、推進委員会のこれまでの取組の成果などを踏まえて、令和７年度から本格的な小中一貫教育を始めました。前号にて概略を掲載しましたが、今号では新たに始めた事業を抜粋して、詳しく紹介します。

1. 小学校外国語指導（専門性の高い教員による授業）
小学校３年生から６年生において一部教科担任制による外国語活動と外国語の授業を行うとともに、小学校１・２年生にも外国語授業を実施します。児童が早期から外国語に触れることで、外国語への興味・関心を高め、学習意欲を引き出すほか、専門性の高い教員による授業を実施することを通して、砂川学園における教科担任制へスムーズに移行する下地を作ることを目的としています。

2. 幼保・小中の連携強化（スタートカリキュラム）
小学校へ入学した子どもが幼稚園や保育所（園）、こども園で培った遊びや生活経験を基盤として、新しい学校生活に素早く慣れるためのカリキュラムとして、「スタートカリキュラム」を策定しました。「スタートカリキュラム」では、入学からゴールデンウィーク明けまでの期間を対象として、幼保で経験してきた歌や遊び、読み聞かせなどを中心とした活動を１時間目に行うほか、授業時間を分割し、こまめに内容を変えることで少しずつ 45 分授業に慣れさせていくこととしています。新１年生に学校生活の楽しさを伝えながら、徐々に学習に移行していきます。

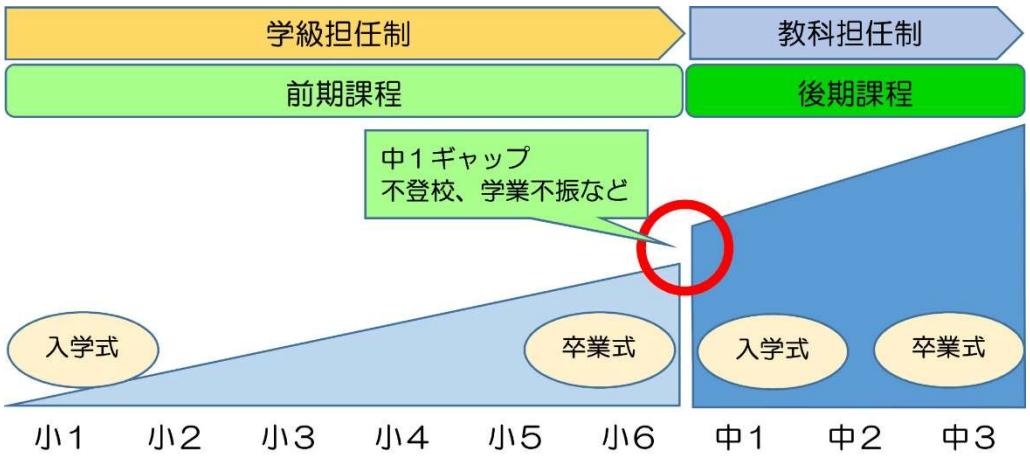
3. ICT 活用スキルの育成（クロームブックの活用）
令和６年度にクロームブックを活用した砂川市独自の ICT スキル学習計画を作成しました。義務教育の９年間を通して、デジタル社会を生き抜くことができる人材を育成することを目的として、１年生から ICT に触れ、学年ごとに習得を目指す ICT 活用スキルを設定したものです。すべての小中学校で統一した学習計画を活用することで、小中学校統合後に予想される学習状況の学校間格差を是正するねらいもあります。

砂川学園の特徴・特色について

砂川学園の開校までいよいよ１年を切りました。統合準備だよりでは砂川学園の特徴や特色について、テーマごとに分けて紹介していきます。今回は、義務教育９年間を３つのブロックに分けた「４－３－２制」について紹介します。

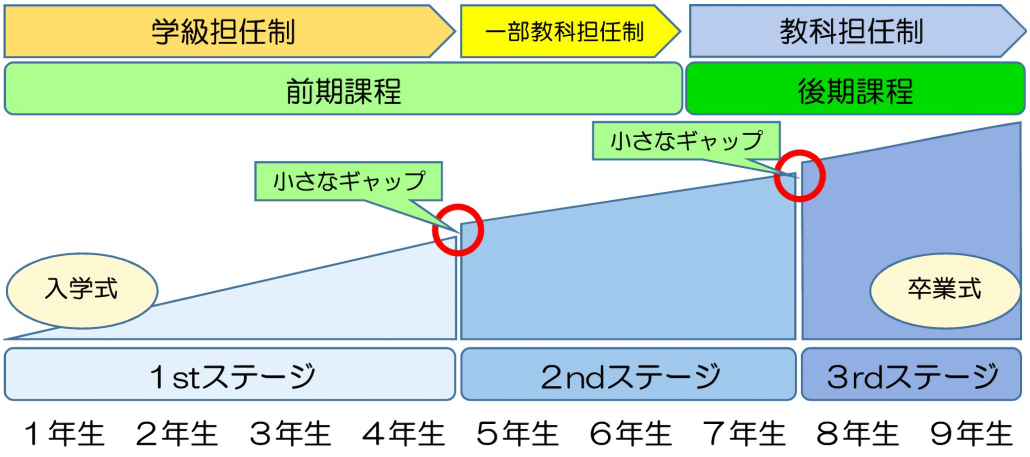
○前期・後期課程と「４－３－２制」について

・これまでの教育課程（６－３制）



これまでの教育は、小・中学校間の連携はあったものの、中学校進学時の環境の変化や不安などが大きく、いわゆる「中１ギャップ」の段差を感じる生徒たちもいました。このことが原因となって中学校生活への適応に時間がかかることにより、問題行動や不登校、学習意欲の低下が起こりやすくなるという課題がありました。

・小中一貫教育に基づく新しい教育課程（４－３－２制）



砂川市が考える小中一貫教育では、９年間を見据えたカリキュラムを軸として、１st、2nd、3rd、それぞれの時期で重点化する指導内容を明確にし、系統性を意識した指導に取り組みます。また、2nd ステージのうち５・６年生を対象に一部教科担任制を実施するほか、部分的に 50 分授業を導入し、後期課程の学習に対する不安の軽減を図ります。

保護者説明会のお知らせ

令和７年秋頃に、砂川学園開校に向けた保護者説明会を開催し、砂川学園における教育内容の特徴や学校行事、保護者の皆様にお願いする準備などをご説明する予定です。説明会の詳細に関しては、改めてお知らせいたします。

砂川学園建設工事の状況について

▲２階床工事の様子

▲メインアリーナ工事の様子

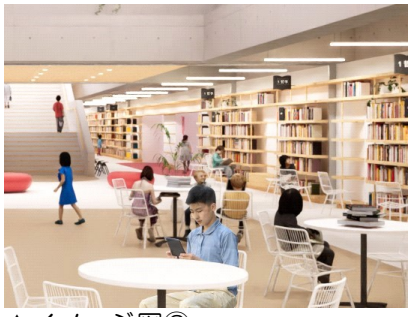
冬季間に設置していた仮設上屋の撤去作業が完了し、本校舎では２階部分の建設が始まりました。現在は２階の床を造るために鉄筋を敷き込んでいます。完了後、床にコンクリートを流し込む予定です。また、メインアリーナでは壁造りが始まりました。

砂川学園設計の特徴について

開校まで１年を切った砂川学園について、統合準備だよりでは今後、砂川学園の設計上の特徴について紹介していきます。第１回は図書スペースについてです。

▲工事の様子

▲イメージ図①



▲イメージ図②

従来、学校における図書スペースは「学校図書室」として、学校施設の中で明確に区切られる形で設置されていました。近年、デジタル化が推進される中で、学校における図書スペースのあり方を検討しました。

その結果、砂川学園では「学校図書室」を設置せず、１階オープンスペースに「ブックストリート」として図書スペースを設計しました。１階共用部に図書スペースを設置することにより、気軽に立ち寄ることができ、休み時間やスクールバスの待ち時間などに、児童生徒が本に親しむことができるよう整備します。また、図書スペース付近に貸し出しのカウンターを設けることで、本来の「学校図書室」としての機能も維持します。

★小中学校統合の関係は、市ホームページでも公開しています。
URL：https://www.city.sunagawa.hokkaido.jp/kosodate_kyouiku/kyouikugyousei/2020-0827-1549-62.html　右の QR からもアクセスできます

◆お問い合わせ　砂川市教育委員会学校再編課
住所：砂川市西７条北２丁目１番１号
電話：0125-74-4313　FAX：0125-74-8798　E-mail：saihen@city.sunagawa.lg.jp